

1409 北綱島特別支援学校・北綱島小学校で「ふれあい大相撲」が開催されました
・・・多くの児童・生徒が参加し、相撲を通じて障害に対する理解を深めました・・・

相撲を通じて障害に対しての理解をふかめるとともに、こども達へ元気と勇気を届け、夢と希望をもって心豊かに成長し、将来いろいろなことに挑戦したいという子ども達になれるよう、大相撲の力士（八角親方、隠岐の海、海士の島、北勝鶴）と触れ合い、一緒に運動をしました。当日は、雨天で体育館内での実施となったものの、多くの参加者があり、館内は熱気に包まれていました。

この事業は、「横浜子どもスポーツ基金」の支援により実施されたものです。

※海士の島は、知的障害を持ち島根県立養護学校を卒業後、小さいころからの夢であった相撲取りとなることを志し、上京、角界入りした力士です。



左から、八角親方、隠岐の海、
海士の島、北勝鶴



児童たちへ四股を披露する3力士



海士の島と北勝鶴の取組に沸く場内



子どもたちと海士の島との取組



児童からの質問に答える八角親方



力士と参加児童との記念撮影

ふれあい大相撲に参加して感じたこと・思ったこと

北綱島小学校6年 山田 彩菜

力士になられた方々は、今まで、つらい練習などもあきらめず、努力をつみ重ねてこられました。そうして力士になることができたのは、本当に力士になりたいと思い、力士になるための努力をおしまない強い気持ちがあったからこそだと思います。夢だった力士になられた今も、毎日のけいこをかかさずに行っているそうです。

私は、このことを知り、これからは力士の方々を見習い、ひとつひとつの物事をあきらめずに、最後までやりとげる力をつけていきたいと思いました。そして、今回のふれあい大相撲で学んだことを活かして、たくさんの努力をし、少しでも夢に近づくことができるよう、がんばりたいと思いました。

ふれあい大相撲に参加して感じたこと・思ったこと

北綱島小学校6年 菅野 翼

ぼくは、八角親方の話をきいて八角親方のいっていることは「そのとおりだな」と思いました。なぜならぼくはサッカーをやっていて、同じような経験をしたからです。はじめは下手だったのでサッカーにたいして必死に努力をしました。そうしたらすこしうまくなりました。すこしうまくなったとたんぼくは、サッカーにたいして必死になることをわすれていました。ぼくは、八角親方の話を聞いて、その内容に心を打たれました。話をきいて必死にやればいまよりも何10倍もサッカーがうまくなっていたと思いました。だからぼくはこれからサッカーだけではなくいろいろなことを必死にとりくみたいです。